

平成29年度第1回北海道アウトドア資格制度推進委員会 概要

- 【日 時】 平成29年8月31日（木） 10時00分から11時20分まで
【場 所】 道庁別館西棟 4階 経済部2号会議室
【出席者】 大森委員長、落合委員、村上委員、阿久澤委員
[資格制度業務センター（一般社団法人 北海道体験観光推進協議会）]
伊藤専務理事
[事務局（北海道経済部観光局）]
内藤参事、長山主幹、杉浦主査、佐藤主任

【議 事】

（アウトドアガイド資格の取得向上について）

- 資格制度の認知度がまだ低いことにより、ガイドの資格を更新しないガイドや、事業者によっては自社のガイドに資格取得を促していない事業者も多く見受けられる。資格を取得するガイドが増えない要因の一つとして、資格取得によるメリットがぼやけていることが挙げられる。
- 資格取得のメリットのなさが一度広がってしまい、その後、もう一度興味を持ってもらうきっかけとなるインパクトが出ていないこと。優良事業者の送迎メリットや、資格制度に興味を持って勉強しているガイド、特に自然ガイドの分野では、旅行会社から北海道の資格を有している人が指定されて仕事の依頼を受けることが多いので、自然ガイドは資格を取らなければ旅行会社との繋がりが…との危機感があり、今も受験者が増えている状況。
- 優良事業者などの登録により無料送迎ができるメリットも大変なメリットであるため、その部分もアピールすることが重要。
- 優良事業者のPRは直接有資格者にしなければならないことなので、更新時講習等で実施している。しかし、しっかりとした事業者管理ができるのかというのを認定要領で定めており、その点で面倒と感じる事業者がいると想定される。
- 一度資格を流した方が資格の再取得を目指す場合について、経験が十分な方等については、再資格の弾力化をして、面倒な手続きにならないような仕組みは一つの手ではある。

（ガイド同士のネットワーク）

- 検討資料の中で観光事業者等との連携強化に触れているが、そのような連携につながるように、観光事業者や農林事業者等との出会いづくりにつながるようなマッチングイベントを開催するという手法も考えられるのではないかと思う。
- アウトドア事業者の経営体質強化策として、ベテランのアウトドア事業者が講師となり、これから創業する者や創業間もないアウトドア事業者向けにセミナー・勉強会のような形で事業の進め方や留意点等について教えるような場があっても良い。
- ガイド同士で交流を図るようなイベント、特に更新時講習は非常にガイド同士の交流を図るのに有効な機会である。回数を増やすのが良いのか、場所を変えるのが良いのか難しいところであるが、ガイド同士のネットワークを作る機会が増えればと思う。

（WEBの活用、プロモーション等）

- 「旅して体験」という体験型に特化したWEBサイトを公開しているが、北海道観光振興機構のプロモーション事業をきっかけに、アクセス数が増加した。
- 予約の手法として、団体旅行は旅行会社、個人旅行はインターネットか直接申し込みが多い。
- インターネットの予約サイト（北海道体験ドットコム、アソビュー等）はたくさん存在するが、そこでの北海道アウトドアガイド資格制度についての記載はない。無資格の事業者を排除するのではなく、有資格の事業者を優遇するといった考え方で、そのような予約サイトや旅行会社へアウトドア資格制度についてWEBやパンフレット等に記載してもらうなどし、それを見た利用者が資格制度を理解し、安全で優良な有資格の事業者へ予約が入りやすくなるような流れが作られると良いと思う。

- 旅行会社は修学旅行に特化されていると思うが、北海道に入ってくる旅行者の8割以上が個人旅行化しており、その要望と北海道の持っているもののマッチングが必要。資格制度も整備されているので活用すべき。アウトドア活動を売り込むときにも、「アウトドアガイド付き」といった部分の強調も必要ではないか。
- ただのガイドだけではなく、自然観察員もされていると周知されると、ガイドのモチベーション、ステータスも更に上がるのではないか。

(アウトドアガイドの活用)

- 北海道観光振興機構で観光関係者インバウンド対応研修事業、アウトドア関連事業者向け研修を行っている。また、アウトドアガイドが協力・参画できる事業が多くあることから活用していけないか。
- 最近実施していないが、首都圏、関西でアウトドア講習を実施し、個性豊かなアウトドアガイドがアピールする手法。
北海道の自然の中で働きたいという若者は間違いなくいるので、そういう部分に北海道はもっと全国にアピールして良いと思う。

(アドベンチャーツーリズムについて)

- 北海道アドベンチャートラベル協議会を運輸局等が主体となって作られた。また、経済産業省の北海道経済産業局がアドベンチャーツーリズム(AT)、世界的にアドベンチャーツーリズムが注目を浴びてきている中で、世界的組織 ATTA を招聘するといった話になってきている。
アドベンチャーツーリズムの中に北海道の資格制度というものがあって、認定したガイドによってその対応へ、との流れに持って行かなければもったいない。その流れになれば、当然今まで資格取得を意識していたかったような方が、資格を取ってやろうという形になるのではないか。
- 大きくアドベンチャーツーリズムという世界的な流れの中で、北海道のアウトドア活動の優位性、資格制度が持っているものを打ち出し、今後の海外向けのPR中に北海道を出していくというのは大きな視点。

(計画策定に向けて)

- 今まで道庁でやってきたことを継続的に何とかしていこう、マイナーチェンジだけ繰り返していこうといった形ではなく、もう少し広い目で見ること。
- 計画を見直す中に、世界の流れ、日本の流れの中、北海道一枚岩でアドベンチャーツーリズムというものを前面に出して、アウトドア資格制度をしっかりと組み込んでPRする等を考えて欲しい。資格制度の存在感を出すこと。
- 資格を取ったときのメリットがぼやけていることから、ある程度認知させていく必要があるのではないか。また、ガイド同士のネットワークを重要である。
- インバウンド対策として受入体制を各事業者でどのように整備していくか、支援をしていくかといった視点もあると良いのではないか。